

Korea File 2018 NO.1 別冊「朝鮮の声」(2018/01/01~03/28)

●金正恩委員長が新年の辞 (1/1)

愛する全国の人民と勇敢な人民軍将兵の皆さん！

同胞兄弟の皆さん！

今日、われわれ皆は勤勉で誇らしい労働で、誠実な汗と努力で送った1年に自分たちが成し遂げた誇らしい出来事を大きな喜びと自負心と共に感慨深く追憶し、新たな希望と期待を抱いて新年2018年を迎えます。

私は、希望の新年を迎えて全国の家庭の健康と幸福、成果と繁栄を祈り、われわれの子どもたちの新年の願いとわが人民皆が志向する美しい夢がかなうことを願います。

同志の皆さん！

打ち重なる難関と試練の中でもいつも変わりなく党を信じて従う剛毅（ごうき）な人民の真情のこもった姿に大きな力と知恵を得て、祖国繁栄の進軍路を力強く駆けてきたこの1年を振り返り、私はどれほど偉大な人民と共に革命を行っているのかという思いで胸が熱くなります。

私は、艱苦（かんく）にして栄光ある闘いの日々に志と心を共にし、党の決心を支持し、従って五千年の民族史に特筆すべき奇跡的勝利をもたらした全ての人民と人民軍将兵に朝鮮労働党と朝鮮政府の名で心からの感謝と新年のあいさつを謹んで送ります。

私は、祖国の統一のために闘っている南の同胞と海外同胞、侵略戦争に反対し、われわれの正義の偉業に固い連帯を送った世界の進歩的な人民と友人に新年のあいさつを送ります。

同志の皆さん！

2017年は、自力、自強の原動力で社会主義強国建設の歴史に不滅の里程標を立てた英雄的闘争と偉大な勝利の年でした。

昨年、米国とその追従勢力の反朝鮮孤立・圧殺策動は極限に達したし、わが革命は類例を見ない厳しい挑戦に直面することになりました。生じた情勢と前進の途上に横たわった最悪の難関の中で、わが党は人民を信じ、人民は党を決死擁護して逆境を順境に、災いを福に転じ、社会主義強国建設の全ての戦線で目覚ましい成果を収めました。

われわれは昨年の荘厳な闘いを通じて、偉大な金日成主席と偉大な金正日総書記が開いたチュチェの社会主義の一路に沿って最後まで進もうとする絶対不変の信念と意志、全ての人民が党の周りに固く結集した社会主義朝鮮の一心団結を内外に力強く誇示しました。

昨年、わが党と国家と人民が獲得した特出した成果は、国家核戦力完成の歴史的偉業を成し遂げたことです。

まさに1年前、私はこの場で党と政府を代表して大陸間弾道ミサイル（ICBM）の試射準備が最終段階で推し進められていることを公表したし、この1年間、その履行のための数回の試射を安全に透明性を持って行って確固たる成功を全世界に証明しました。

昨年、われわれは各種の核運搬手段と共に超強力熱核兵器の実験も断行することで、われわれの総体的志向と戦略的目標を成果的に、成功裏に達成したし、わが共和国はついにいかなる力でも、何によっても逆戻りさせられない強力で頼もしい戦争抑止力を保有することになりました。

わが国家の核戦力は、米国のいかなる核の威嚇も粉碎し、対応できるし、米国が冒険的な火遊びをできないように制圧する強力な抑止力となります。

米国は決して私とわが国家を相手に戦争を仕掛けられません。

米本土全域がわれわれの核攻撃の射程圏内にあるし、核のボタンが私の執務室の机の上に常に置かれていること、これは決して脅しではない現実であることをはっきりと知らなければなりません。

われわれは、国の自主権を頼もしく守れる最強の国家防衛力をもたらすために生涯を全てささげた偉大な主席と偉大な総書記の念願をかなえ、全ての人民が長久な歲月、ベルトを締め上げて願った平和守護の強力な宝剣を握りました。この偉大な勝利は、党の並進路線と科学重視思想の正当性と生命力の明確な証明であり、富強祖国建設の確固たる展望を開き、わが軍隊と人民に必勝の信念を与えた歴史的壮挙です。

私は、生存を脅かす制裁と封鎖の困難な生活の中でも、わが党の並進路線を固く信じて絶対的に支持し、力強く後押しした英雄的朝鮮人民に崇高な敬意を表します。

私はまた、党中央の構想と決心は科学、真理であり、実践であることを世界に実証するために一年中献身、奮闘したわれわれの国防科学者と軍需労働者階級に熱い同志のあいさつを送ります。

昨年、国家経済発展5カ年戦略の遂行でも大きな前進を遂げました。

金属工業の主体化を実現する闘いを力強く行って金策製鉄連合企業所（咸鏡北道）にわれわれ式の酸素熱法溶鉱炉ができて無煙炭で銑鉄生産を正常化できるようになったし、化学工業の自立的土台を強化して5カ年戦略の化学の山を越える展望を開きました。

紡織工業、製靴工業と織物工業、食品工業をはじめ軽工業部門の多くの工場が主体化の旗印を高く掲げてわれわれの技術、われわれの設備で多くの生産工程の現代化を力強く行って一般消費財の多種化、多様化を実現し、製品の質を高められる保証をもたらしました。

機械工業部門が自力更生の旗印を高く掲げ、科学技術に依拠して党の示した新型のトラクターとトラックの生産目標を成功裏に達成することで、人民経済の主体化、現代化と農村経営の総合的機械化をさらに力強く推し進められる強固な基礎を築いたし、農業部門が科学的農法を積極的に取り入れ、不利な気候条件でも多収穫農場と作業班の隊列を増やし、例年のない果物の豊作をもたらしました。

わが軍隊と人民は、雄壮で華麗な黎明通り（平壤）と大規模の洗浦地区畜産拠点（江原道）を建て、山林復旧戦闘第1段階の課題を遂行することで、軍民大団結の威力と社会主義自立経済の潜在力を誇示しました。

万里馬速度創造のための躍動する闘いの中で新たなモデルケースが次々と生まれ、多くの工場、企業所が年間人民経済計画を繰り上げて遂行し、過去最高であった年度の生産水準を突破する誇りとどろかしました。

昨年、科学・文化戦線でも成果を収めました。

科学者、技術者は、社会主義強国の建設で提起される科学技術上の問題を解決し、先端分野の研究課題を完成させて経済発展と人民生活の向上を促しました。社会主義教育体系がさらに完備され、教育環境がより一新されたし、医療サービスの条件が改善されました。全国を革命的ロマンと戦闘的気迫で沸き返らせる芸術公演活動の手本が創造され、われわれのスポーツ選手が各国際大会で優勝を獲得しました。

昨年に収めた全ての成果は、朝鮮労働党の主体的な革命路線の勝利であり、党の周りに固く結集した軍隊と人民の英雄的闘争がもたらした貴い結実です。

朝鮮の自主権と生存権、発展権を抹殺しようとする米国とその追従勢力の制裁・封鎖策動がいつにも増して悪辣（あくらつ）に行われる中で、自力で他人が思いも寄らない輝かしい勝利を達成したまさしくここにわが党と人民の尊厳があり、大きな誇りと自負心があります。

私は、昨年の重大な日々にもいつも党と運命を共にし、直面する試練と難関を乗り越え、社会主義強国建設偉業を勝利のうちに前進させてきた全ての人民と人民軍将兵にあらためて熱い感謝を贈ります。

同志の皆さん！

今年、われわれは栄光ある朝鮮民主主義人民共和国創建70周年を迎えることとなります。偉大な主席と偉大な総書記の最大の愛国遺産である社会主義のわが国家を世界が公認する戦略国家の地位に堂々と押し上げた偉大な人民が、自分の国家の創建70周年を盛大に記念することになるのは実に意義深いことです。

われわれは、チュチェ朝鮮の建国と発展の道のに輝かしい英雄的闘争と集団的革新の伝統を継いで革命の最後の勝利を収める時まで継続革新、継続前進していかなければなりません。朝鮮の核武力の建設で収めた歴史的勝利を新たな発展の跳躍台にし、社会主義強国建設の全ての戦線で新たな勝利を獲得するための革命的な総攻勢を繰り広げていかなければなりません。

「革命的な総攻勢で社会主義強国建設の全ての戦線で新たな勝利を獲得しよう!」、これがわれわれが掲げていくべき革命的スローガンです。全ての活動家と党員と勤労者は、戦後の千里馬大高揚で難局を乗り切って社会主義建設で一大高揚を起こしたように、人民挙げての総攻勢を繰り広げて最後のあがきをする敵対勢力の挑戦を粉碎し、朝鮮の全般的国力を新たな発展段階に引き上げなければなりません。

国家経済発展5カ年戦略遂行の3年目である今年、経済戦線全般で活性化の突破口を開かなければなりません。

今年、社会主義経済の建設で提起される中心課題は、党中央委員会第7期第2回総会が示した革命的対応戦略の要求通り人民経済の自立性と主体性を強化し、人民生活を改善、向上させることです。

人民経済の自立性と主体性の強化に総力を集中しなければなりません。

電力工業部門は、自立的な動力拠点を整備、補強し、新たな動力資源の開発に大きな力を入れなければなりません。火力による電力の生産を決定的に増やし、発電設備の不備な点を整備、補強して電力の損失を減らし、最大限増産する闘いを力強く行わなければなりません。道が地元の特性に合った電力生産拠点を建て、既存の中小型水力発電所が電力の生産を正常化して地方工業部門の電力を自前で賄うようにしなければなりません。全国的な時差交代生産の手配を綿密に行い、電力の浪費現象との闘いを力強く行って生産された電力を効果的に利用する機運を起こすようにしなければなりません。

金属工業部門は、主体的な製鉄・製鋼技術をさらに完成させて鉄の生産能力を拡大し、金属材料の質を決定的に高めて人民経済の鉄鋼材の需要を満たさなければなりません。金属工業部門に必要な電力、鉄精鉱、無煙炭、褐炭、貨車と機関車、資金を他の部門に先立って計画通り正確に提供して来年の鉄鋼材の生産目標を無条件遂行し、金属工業の主体化を必ず完成させるようにしなければなりません。

化学工業部門がC1化学工業の創設を推し進め、触媒生産拠点とリン肥料工場の建設を計画通り推し進め、灰芒硝(硫酸塩鉱物)を出発原料とする炭酸ナトリウムの生産工程を更新、完備しなければなりません。

機械工業部門は、金星トラクター工場(南浦市)と勝利自動車連合企業所(平安南道)をはじめとする機械工場を現代化し、世界的水準の機械製品をわれわれ式に開発、生産しなければなりません。

国の自立的経済の土台が効果を表すよう石炭と鉱物の生産、鉄道輸送で連带的革新を起こさなければなりません。

特に、鉄道輸送部門が輸送の手配と指揮を科学化、合理化して現存の輸送能力を最大限効果的に利用し、鉄道に軍隊のような強い規律と秩序を立てて列車の無事故・定時運行を保つようにしなければなりません。

今年、人民生活の向上で転換をもたらさなければなりません。

軽工業工場の設備と生産工程を省力型、節電型に更新し、国内の原料と資材で多様で良質の消費財をより多く生産、供給し、道市郡が自前の原料源に依拠して地方経済を特色を持って発展させなければなりません。

農業と水産業戦線が高揚を起こさなければなりません。優良種子と多収穫農法、能率的な農業機械を大々的に取り入れ、農業を科学技術的に営んで穀物の生産目標を必ず達成し、畜産物と果物、温室野菜とキノコの生産を増やさなければなりません。造船および船舶修理能力を高め、科学的な漁労戦を展開し、養魚と養殖を活性化しなければなりません。

今年、軍民が力を合わせて元山葛麻海岸観光地区（江原道）の建設を最短期間に完了し、三池淵郡（両江道）の開発と端川発電所（咸鏡南道）の建設、黄海南道用水路の第2段階工事をはじめ重要プロジェクトを推し進め、住宅の建設に引き続き力を入れなければなりません。

山林復旧戦闘の成果をさらに拡大し、既に造成された山林の保護管理をしっかりと行うとともに、道路の技術状態を改善し、河川の整理を正常化し、環境保護活動を科学的に、責任を持って行わなければなりません。

人民経済の全ての部門と部署が自前の技術陣と経済的潜在力を総動員し、増産・節約闘争を力強く行ってより多くの物質的富を創造しなければなりません。

自立経済発展の近道は、科学技術を優先させて経済作戦と指揮を革新することにあります。

科学研究部門は、われわれ式の主体的な生産工程を確立し、原料と資材、設備を国産化し、自立的経済構造を完備する上で提起される科学技術上の問題を優先的に解決していかなければなりません。人民経済の全ての部門と部署が科学技術の普及を強化し、技術革新運動を活発に行って生産の成長に寄与しなければなりません。

内閣をはじめ経済指導機関は、今年の人民経済計画を遂行するための作戦案を現実的に立て、その執行のための活動を責任を持って頑強に推し進めなければなりません。国家的に社会主義企業責任管理体制が工場、企業、協同団体に実際に効果を表すよう積極的な対策を立てなければなりません。

社会主義文化を全面的に発展させなければなりません。

教員陣営を強化し、現代教育の発展の趨勢（すうせい）に即して授業の内容と方法を革新し、医療サービスで人民性を徹底的に具現し、医療設備と器具、さまざまな医薬品の生産を増やさなければなりません。

大衆スポーツを活発に行い、われわれ式のスポーツ技術と競技戦法を創造し、万里馬時代のわが軍隊と人民の英雄的闘争と生活、美しく崇高な人間味を誠実に反映した名作を創作、創造して革命的な社会主義文学・芸術の力でブルジョア反動文化を抑え付けなければなりません。

全社会的に道徳、紀綱を正しく立てて社会主義生活様式を確立し、あらゆる非社会主義的な現象を根こそぎにする闘いを力強く行って全ての人が高尚な精神的・道徳的風貌を備え、革命的で文化的に生活していくようにしなければなりません。

自衛的国防力をさらにしっかり打ち固めなければなりません。

偉大な主席が朝鮮人民革命軍を正規の革命武力に強化し、発展させた70周年に当たる今年、人民軍は革命的党軍としての面貌をさらに完璧に備えるべきであり、戦闘訓練を実戦の環境に近づけて強度に企画し、行って全ての軍種、兵種、専門兵の部隊を一騎当千の戦闘隊伍（たいご）にしなければなりません。

朝鮮人民内務軍は階級闘争を鋭く行って不純な敵対分子の蠢動（しゅんどう）を随時摘発、粉砕し、労農赤衛軍、赤い青年近衛隊は戦闘・政治訓練を力強く行って戦闘力をあらゆる面から強化しなければなりません。

国防工業部門は、第8回軍需工業大会で党が示した戦略的方針通り並進路線を一貫して堅持してわれわれ式の威力ある戦略兵器と装備を開発、生産し、軍需工業の主体的な生産構造を完備し、先端科学技術に基づいて生産工程を現代化しなければなりません。

核兵器研究部門とロケット工業部門は、既にその威力と信頼性が確実に保証された核弾頭と弾道ミサイルを大量生産して実戦配備する事業に拍車を掛けていかなければなりません。

また、敵の核戦争策動に対処した即時的な核反撃作戦態勢を常に維持するようにしなければなりません。

政治的・思想的威力はわが国家の第一の国力であり、社会主義強国建設の活路を開いていく偉大な推進力です。

われわれに提起された闘争課題を成功裏に遂行するためには、全党を組織・思想的にさらに固く団結させ、革命的党風を徹底的に確立して革命と建設事業全般で党の戦闘力と指導的役割を絶えず高めていかなければなりません。

全ての党組織が党の思想に反するあらゆる不純な思想と二重規律を絶対に許さず、党中央委員会を中心とする全党の一心団結をあらゆる面から強化しなければなりません。

全党的に党の権勢と官僚主義をはじめ古い活動方法と作風を根こそぎにすることに力を入れ、革命的党風を確立する闘いを強度に行って党と人民大衆の血縁的なつながりを盤石にしていかなければなりません。

党組織は、当該の部門、部署の活動が常に党の思想と意図、党政策の要求に即して行われるよう党の指導を強化し、政治活動を確固と優先させて思想を動員する方法で社会主義強国の建設で提起される問題を成功裏に解決していかなければなりません。

全ての軍隊と人民を党の周りに思想、意志に基づいて固く集結させて皆がいかなる逆境の中でも党と生死運命を共にし、社会主義偉業の勝利のために一身をささげて闘っていくようにしなければなりません。

党・勤労者団体組織と政権機関は、全ての活動を一心団結の強化に指向、服従させていかなければなりません。人民の要求と利益を基準に活動を設計、展開し、人民の中に深く入って苦楽を共にし、人民の心の中の苦衷と生活上の隘路（あいろ）を解決しなければなりません。全てが不足する時ほど同志間、隣人間に互いに助け合い、心から思いやる美風が強く発揚するようにならなければなりません。

こんにちの万里馬大進軍で英雄的朝鮮人民の不屈の精神力を余すところなく爆発させなければなりません。

党・勤労者団体組織は、全ての勤労者が愛国主義を心に刻み、自力更生の革命精神と科学技術を原動力に万里馬速度創造大戦で絶え間ない集団的革新を起こしていくようにしなければなりません。活動家と党員と勤労者が千里馬の大進軍で世紀の変革を遂げた前世代の闘争精神を継いで誰もが時代の先頭に立って力強く駆ける万里馬先駆者になるようにしなければなりません。

同志の皆さん！

昨年もわが人民は民族の志向と要求に即して国の平和を守り、祖国統一を早めるために積極的に闘ってきました。しかし、わが共和国の自衛的核抑止力の強化を阻もうと行われる米国とその追従勢力の悪辣な制裁・圧力騒動と狂乱的な戦争挑発策動によって朝鮮半島の情勢は類例なく悪化し、祖国統一の前途にはより重大な難関と障害が生じました。

南朝鮮で怒った各界各層の人民の大衆抗争によってファッショ統治と同族対決にしがみついていた保守「政権」が崩れ、執権勢力が代わったが、北南関係で変わったものは何もありません。むしろ、南朝鮮当局は全同胞の統一の志向に逆行して米国の対朝鮮敵視政策に追従することで、情勢を陰悪な域に追い込んで北南間の不信と対決をさらに激化させたし、北南関係は解決し難い閉塞（へいそく）の局面にひんすることになりました。こうした不正常的な状態を終わらせずには国の統一はおろか、外部勢力が強いる核戦争の惨禍を免れません。

生じた情勢は、今こそ北と南が過去に縛られずに北南関係を改善し、自主統一の突破口を開くための決定的な対策を立てていくことを求めています。この差し迫った時代の要求に背を向けるなら、誰も民族の前に堂々とした姿で立てないでしょう。

新年は、わが人民が共和国創建70周年を大慶事として記念することになり、南朝鮮では冬季オリンピック競技大会が開かれることによって、北と南に共に意義のある年です。われわれは、民族の大事を盛大に執り行い、民族の尊厳と気概を内外にとどろかすためにも、凍結状態にある北南関係を改善して意義深い今年を民族の歴史に特筆すべき重大な年に輝かさなければなりません。

何よりも、北南間の緊迫した軍事的緊張状態を緩和し、朝鮮半島の平和な環境をまず整えなければなりません。

今のように戦争でもなく、平和でもない不安定な情勢が続く中では、北と南が予定された行事を成功裏に行えないのはもちろん、互いに対座して関係改善の問題を真摯（しんし）に論議することも、統一に向けて真つすぐ進むこともできません。

北と南は情勢を激化させることをこれ以上してはならないし、軍事的緊張を緩和し、平和な環境を整えるために共同で努力しなければなりません。

南朝鮮当局は、全同胞の運命とこの地の平和と安定を脅かす米国の無謀な北侵核戦争策動に加担して情勢激化をあおるのではなく、緊張緩和のためのわれわれの誠意ある努力に応えなければなりません。この地に火炎を放ち、神聖な国土を血に染める外部勢力との全ての核戦争演習を中止すべきであり、米国の核装備と侵略武力を引き入れる一切の行為をやめなければなりません。

米国がいくら核を振りかざして戦争挑発策動に狂奔しても、今やわれわれに強力な戦争抑止力がある限りどうすることもできないであろうし、北と南が決心さえすれば十分に朝鮮半島で戦争を防ぎ、緊張を緩和していけます。

民族の和解と統一を志向していく雰囲気積極的に醸成しなければなりません。

北南関係の改善は当局だけでなく、誰もが願う焦眉の関心事であり、全民族が力を合わせて解決していくべき重大事です。北と南の接触と往来、協力と交流を幅広く実現して互いの誤解と不信を解き、統一の主体としての責任と役割を果たすべきでしょう。

われわれは、真に民族の和解と団結を願うなら、南朝鮮の政権与党はもちろん、野党、各界各層の団体と個別の人士を含めて誰にでも対話と接触、往来の道を開くでしょう。

相手側を刺激し、同族間の不和と反目を激化させる行為は決定的に終息しなければなりません。南朝鮮当局は、先の保守「政権」時代と変わりなく不当な口実と法的・制度的装置を設けて各階層の人民の接触と往来を阻み、連北統一機運を抑えるのではなく、民族の和解と団結を図るのに有利な条件と環境を整えるために努力しなければなりません。

北南関係を一日も早く改善するためには、北と南の当局がいつにも増して民族自主の旗印を高く掲げ、時代と民族に担った自らの責任と役割を果たさなければなりません。

北南関係はあくまでもわれわれ民族内部の問題であり、北と南が主人となって解決すべき問題です。従って、北南間で提起される全ての問題は、わが民族同士の原則に基づいて解決していこうとする確固たる立場と観点に立たなければなりません。

南朝鮮当局は、北南関係の問題を外部に持ち歩いて請託したところで得るものは何もないし、むしろ不純な目的を追求する外部勢力に干渉の口実を与え、問題の解決に複雑さばかりをつくることを知らなければなりません。今は、互いに背を向けて自分の立場を明らかにする時ではないし、北と南が対座してわが民族同士で北南関係改善の問題を真摯に論議し、その活路を果敢に開いていくべき時です。

南朝鮮で遠からず開かれる冬季オリンピック競技大会について言うなら、それは民族の地位を誇示する良い契機になるであろうし、われわれは大会が成功裏に開催されることを心から願います。こうした見地から、われわれは代表団の派遣を含めて必要な措置を講じる用意があるし、そのために北南当局が早急に会うこともできるでしょう。同じ血筋を引く同胞として同族の慶事を共に喜び、互いに助けるのは当然のことです。

われわれは今後も、民族自主の旗印を高く掲げて全ての問題をわが民族同士で解決していくであろうし、民族の団結した力で内外の反統一勢力の策動を粉碎し、祖国統一の新しい歴史を記していくでしょう。

私はこの機会に、国内外の全ての朝鮮同胞にあらためて温かい新年のあいさつを送り、意義深い今年に北と南で万事が良好に運ぶよう心から願います。

同志の皆さん！

昨年国際情勢は、世界の平和と安全を破壊し、人類に核の惨禍を浴びせようとする帝国主義侵略勢力には専ら正義の力で立ち向かわなければならぬというわが党と国家の戦略的な判断と決断が極めて正しかったことをはっきりと実証しました。

われわれは平和を愛する責任ある核強国であって、侵略的な敵対勢力がわが国家の自主権と利益を侵害しない限り、核兵器を使用しないであろうし、どの国や地域も核で脅かさないでしょう。しかし、朝鮮半島の平和と安全を破壊する行為に対しては断固対応していくでしょう。

わが党と朝鮮政府は、わが国の自主権を尊重し、われわれに友好的に接する全ての国との善隣友好関係を発展させていくであろうし、義に徹した平和な新しい世界を建設するために積極的に努力するでしょう。

同志の皆さん！

2018年はわが人民にとってもう一つの勝利の年になるでしょう。

新年の荘厳な進軍路が始まるこの時刻、人民の支持を得ているのでわれわれの偉業は必勝不敗であるという確信で私は心強く、全力を尽くして人民の期待に必ず応える意志をさらに固めることになります。

朝鮮労働党と朝鮮政府は、人民の信頼と力に依拠してチュチェ革命偉業の最後の勝利を収める時まで闘いと前進を止めないであろうし、全ての人民が尊厳ある幸福な生活を享受する社会主義強国の未来を必ず早めるでしょう。

こぞって朝鮮労働党の指導に従って英雄朝鮮の剛勇な気概をとどろかし、革命の新たな勝利に向かって力強く前へ進んでいきましょう。

●金正恩委員長の委任を受け、祖国平和統一委員会の李善権委員長が平昌冬季オリンピックへの代表団派遣に関して朝鮮の立場を発表（1/3）

NATO事務総長の朝鮮ミサイル脅威説を非難

朝鮮国務委員会委員長である金正恩同志は、2018年の新年の辞で明らかにした平昌冬季五輪への参加と北南関係改善の問題に対する自身の立場に接した南朝鮮青瓦台が公式的に支持、歓迎することを発表し、2日には最初の国務会議で文在寅大統領が直接、積極的な支持の意思を示して当該部門に実務的な対策を講じるよう指示したとの報告を受け、それについて肯定的に高く評価し、歓迎の意を表明した。

そして、新年の辞で提案した平昌冬季五輪へのわが方代表団の派遣とそのための北南当局間の会談が現状での北南関係の改善に有意義で良い第一歩になるだけに、朝鮮労働党統一戦線部と朝鮮政府の祖平統、国家体育指導委員会をはじめとする当該機関が南朝鮮当局と真摯な立場と誠実な姿勢で実務的な対策を早急に講じることに関する具体的な指示を与えた。

併せて、平昌冬季五輪への代表団派遣の問題を含む会談の開催に関する問題を南側と随時連携するよう3日午後3時から北南間の板門店連絡チャンネルを開通することに関する指示も与えた。

特に、日程に上がった北南関係改善の問題が今後、全民族の期待と念願に即して解決するかどうかというのは全的に、北南当局がこの問題を、いかに責任を持って扱っていくのかに懸かっていると強調した。

われわれは、最高指導部の意を体して真摯な立場と誠実な姿勢で南朝鮮側と緊密に連携を図るであろうし、わが代表団の派遣に関する実務的な問題を論議していくであろう。われわれはあらためて平昌冬季五輪が成功裏に開催されるよう心から願う。

●北南高位級会談 共同報道文（1/9）

北南高位級会談が1月9日、板門店で行われた。会談で双方は、北側代表団の第23回冬季オリンピック競技大会およびパラリンピック競技大会の参加問題と、全同胞の念願と期待に即して北南関係を改善していく問題を真摯に協議し、次のように合意した。

1. 北と南は、南側地域で開催される第23回冬季オリンピック競技大会およびパラリンピック競技大会が成功裏に行われて民族の地位を高める契機になるようにするために積極的に協力することにした。

これに関連して北側は、冬季オリンピック競技大会に高位級代表団と共に民族オリンピック委員会代表団、選手団、応援団、芸術団、テコンドー師範団、記者団を派遣することにし、南側は必要な便宜を図ることとした。

双方は、北側の下見のための先発隊の派遣と北側の冬季オリンピック競技大会の参加に関する実務会談を開催することにし、日程は今後、文書交換方式で協議することとした。

2. 北と南は、軍事的緊張状態を緩和し朝鮮半島の平和な環境を整え、民族の和解と団結を図るために共同で努力することとした。

北と南は、現在の軍事的緊張状態を解消すべきであるとの見解で一致し、これを解決するために軍事当局会談を開催することとした。北と南は、各分野の接触と往来、交流と協力を活性化して民族の和解と団結を図ることとした。

3. 北と南は、両北南宣言を尊重し、北南関係で提起される全ての問題をわが民族同士の原則で対話と協議を通じて解決していくこととした。

このために双方は、北南関係改善のための北南高位級会談と共に各分野の会談も開催することとした。

●芸術団派遣のための北南実務会談（朝鮮中央通信 1/15）

われわれの芸術団派遣のための北南実務会談が15日、板門店の統一閣で行われた。

会談には、文化省の権赫奉局長を団長とするわが方代表団メンバーと文化体育観光部の李宇盛室長を首席代表とする南側代表団メンバーが参加した。

会談で双方は、第23回冬季オリンピック競技大会を契機に南側地域に派遣されるわれわれの芸術団の公演開催に関する実務的問題を真摯に協議し、共同報道文を採択した。

共同報道文には、わが方から140余人で構成された芸術団を南側に派遣して公演を江陵とソウルで行い、公演開催のためのさまざまな実務的問題は南側と協議して円滑に解決していくようにすることが指摘されている。

また、わが方現地調査代表団を早期に派遣し、南側がわが方芸術団の安全と便宜を最大限図り、その他の実務的に提起される問題は板門店連絡チャンネルを通じて文書交換方式で引き続き協議していくこととするとの内容が反映されている。

●冬季五輪・パラリンピック参加のための北南実務会談（朝鮮中央通信 1/17）

北南高位級会談の合意に従って、わが方の第23回冬季オリンピック競技大会および冬季パラリンピック競技大会参加のための北南実務会談が17日、板門店南側地域の「平和の家」で行われた。

会談には、祖国平和統一委員会のチョン・ジョンズ副委員長を団長とするわが方代表団と千海成統一部次官を首席代表とする南側代表団が参加した。

会談で双方は、今回の冬季五輪を成功裏に開催する上で提起される実務的な問題を具体的に真摯に協議し、共同報道文を採択した。

共同報道文には、第23回冬季五輪に参加するわれわれのオリンピック委員会代表団と選手団、応援団、テコンドー師範団、記者団の規模、活動計画と南側が便宜を図る問題、視察のための先発隊の派遣に関する内容が反映されており、国際オリンピック委員会（IOC）と関連する問題は双方がIOCと協力して解決していくという内容が明らかになっている。

また、1月末から2月初めの間に江原道の馬息嶺スキー場と金剛山で行われる北南スキー選手の合同練習と北南合同文化行事に関する実務的な問題が反映されている。

共同報道文にはこの他に、冬季パラリンピックにわれわれのパラリンピック委員会代表団と選手団、応援団、芸術団、記者団を派遣するのをはじめ提起される実務的な問題を双方が文書交換方式で合意すると指摘されている。

●朝鮮外務省日本研究所スポークスマン：朝鮮中央通信記者の質問に回答（1/18）

安倍外交はあまりにも愚かで幼稚

最近、一部の欧州諸国を訪問した日本の安倍（晋三）首相が、これらの国と二国間関係を協議する機会に毎回、われわれの「核・ミサイル開発」と拉致問題を持ち出してこれらの国を反朝鮮圧力共助に引き入れようと悪辣（あくらつ）に策動した。

安倍は、「北朝鮮がピリニウスとベオグラードも射程に入る弾道ミサイルを発射した」「欧州全体にとっても重大な脅威である」「圧力を最大限まで高め、北朝鮮の政策を変えさせなければならない」と騒ぎ立てた。

河野（太郎）外相も、アラブ首長国連邦（UAE）とカナダを走り回って「北朝鮮が核・ミサイル計画を続けるための時間稼ぎをしている」「北朝鮮の『微笑外交』に目を奪われるべきではない」と言ったし、外交関係の断絶など圧力を扇動した。

安倍一味がわれわれの自衛的核抑止力に言い掛かりをつけて反朝鮮圧力雰囲気をつくる一方、国内で「国難」をでっち上げて日本全土を恐怖の雰囲気の中で包んでいるのは、何としても現行憲法を改悪して日本を戦争ができる国にしようとするところにその目的がある。

今回、安倍が欧州諸国を走り回ってわが共和国に対する圧力を執拗に説教したのは、自分らの危険千万な目的の実現のためにどれほど狂っているのかを如実に示している。

圧力を強めればわれわれが政策を変えようとする考えが、一国の首相としてはあまりにも愚かで幼稚な思考方式であると言わざるを得ない。

安倍一味が念仏のように唱える拉致問題についてあえて言うなら、われわれの誠意と努力によって既に解決した問題であるのは周知の事実である。

にもかかわらず、いまだに拉致問題をあちこち持ち歩くのは長期執権を狙った欺瞞（ぎまん）劇にすぎず、その結果に対する責任は必ず安倍一味が負うことになるであろう。

数百万人の朝鮮人を強制的に拉致してあらゆる精神的・肉体的苦痛を強いた反人倫的犯罪については清算せず罪を積み重ねるほど、日本に与えるわれわれのむちもさらに強くなることを銘記すべきである。

安倍一味は、天に唾するような茶番にしがみつくのではなく、変わったわが共和国の戦略的地位を直視し、対朝鮮政策を変更する方が良からう。

●朝鮮外務省スポークスマン：朝鮮中央通信の質問に回答（2/4）

トランプの「一般教書演説」を非難

トランプが「一般教書演説」で、人々をあぜんとさせる妄言と妄動、侵略行為で全米社会と世界を混乱の中に追い込んだこの1年間を「驚くべき進歩と特出した成果に満ちた1年」とであると描写したのは文字通り、トランプ式の傲慢と独断、唯我独尊の極みである。

今、全世界は、トランプが「米国第一主義」と核兵器による「力の優位」を高唱し、米国の排他的な利益に服従するよう他国に強いたことについて、新たな災難を招く不吉な兆しと見なして懸念している。

今回、トランプが人民大衆中心の最も優れたわが社会制度を悪辣にそしる醜態を演じ、われわれに対する「最大限の圧力」を騒ぎ立てたのは、国家核戦力完成の歴史的大業を成就し、世界が公認する戦略国家に急浮上したわが共和国の威力に仰天した者の悲鳴にすぎないし、北南関係の改善を妨害しようとする鼻持ちならない意地悪にすぎない。

トランプが「米国式決断力」をうんぬんし、あえて力でわれわれをどうかしようとする不純な企図までさらけ出しているが、核戦力を中枢とするわれわれの自衛的国防力はトランプとその手先が朝鮮半島で無分別な蛮勇を振るえないよう徹底的に制圧するであろう。

トランプが時代錯誤で独善的な思考方式を捨てられないなら、米国の安全保障と未来をさらに危うくする結果だけが与えられるであろう。

●朝鮮外務省米国研究所スポークスマン：朝鮮中央通信の質問に回答（2/6）

米「核態勢の見直し」は核の宣戦布告

最近、米国のトランプ政権はいわゆるNPRなるものを発表し、自分らの各種核殺人装備をいつでも使用できるようにさらに近代化し、多種化して他の主権国家を核で脅かし、世界を支配しようとする凶悪な野望をより露骨にさらけ出した。

米国は、世界で最初に核兵器を開発し、唯一核兵器を使用して数十万の民間人を殺りくしたし、今も各種の核殺人装備を山のように積み上げ、世界を核戦争勃発へと追い込む核犯罪国家である。

絶対的な核の優位に基づいて世界制覇の野望を実現しようとするのは、歴代の米国執権者が一貫して追求してきた政策であり、トランプ政権は米軍需独占体の忠実な代弁者らしくその実現のためにより狂信的に取り組んでいる。

米国は、今回のNPRで爆発力の低い戦術核弾頭をはじめ新型核兵器を開発し、敵の攻撃が核攻撃であれ、非核攻撃であれ関係なしに核先制攻撃を加えると明らかにすることで全世界を相手に核の宣戦布告を行った。これは、トランプが核戦争を哀願していることを如実に示している。

半世紀以上にわたる米国の核の威嚇から国と民族の自主権と生存権、発展権を守るために完成させたわが国家の戦争抑止力についてトランプが世界平和に対する「脅威」だの何のどむやみに言い掛かりをつけるのは、それこそ盗っ人たけだけしさの極みにほかならない。

米国が強権と専横で国際法を乱暴にじゅうりんし、核のこん棒を意のままに振りかざして世界の覇権を維持しようとする企図を露骨にしているこんにちの厳しい現実には、われわれが並進路線に従って万難を排して核抑止力を打ち固めてきたのが極めて正しかったし、今後われわれが定めた道に沿って力強く進まなければならないという覚悟をさらに固めさせている。

われわれは平和を愛する責任ある核強国であって、侵略的な敵対勢力がわが国家の自主権と利益を侵害しない限り、核兵器を使用しないであろうし、どの国や地域も核で脅かさないであろうが、朝鮮半島の平和と安全を破壊する行為に対しては断固対応していくであろう。

●朝鮮外務省局長：朝鮮中央通信の質問に回答（2/8）

五輪期間に米側と会う意向ない

朝鮮外務省のチョ・ヨンサム局長は、米当局者が第23回冬季オリンピック競技大会の開幕式に参加するわれわれの代表団と米副大統領の接触問題について自分勝手にとやかく言っていることに関連して7日、朝鮮中央通信の質問に次のように答えた。

6日、米國務省報道官は冬季五輪の開幕式に参加するわれわれの代表団と米副大統領の接触の可能性を問う記者の質問に「五輪期間やそれ以後も北朝鮮と会う計画はない」、「その点をはっきりさせたい」と述べた。

ペンス米副大統領も「北朝鮮代表団とのいかなる接触も要請していない」「南側当局に北朝鮮代表団と動線が重ならないようにするよう求めた」と述べ、「何が起きるか見てみよう」と生意気に言い散らした。これこそ、とんでもないことであると言わざるを得ない。

われわれは、米国に対話を哀願したことがなく、今後も同じであろう。明白に言うが、われわれは南朝鮮訪問期間に米国側と会う意向がない。

われわれの代表団が南朝鮮に行くのは、純粋に冬季五輪に参加してその成功裏の開催を祝うためだけである。われわれは、冬季五輪のようなスポーツの祭典を政治的に利用しようとしなない。そうする必要も感じない。

米国は、無分別な言動が自分らの苦しい立場だけをさらにさらけ出すことになることをはっきり認識し、大人しく身を処する方が良かろう。

●朝鮮外務省日本研究所スポークスマン（2/9）：朝鮮中央通信の質問に回答

河野外相の制裁履行要請は拙劣な茶番

日本の反動層の反朝鮮策動が必死に行われている。年頭から欧州諸国を走り回ってわれわれの弾道ミサイルがこれらの国を脅かすと騒ぎ立てた日本の安倍（晋三）首相は、平和的な第23回冬季オリンピック競技大会までわれわれに対する最大の圧力と制裁を扇動する場を利用しようと汚らわしく振る舞っている。

特に、河野（太郎）外相はパキスタンとアラブ首長国連邦（UAE）、カナダと中国などの国を訪ね回って対朝鮮圧力を力説しただけでなく、われわれと外交関係がある国に「経済制裁決議」の完全な履行と外交関係断絶をあおる無分別で拙劣な茶番を引き続き演じている。

河野は、他の主権国家を核で脅かし、世界を支配しようとする野望を露骨にさらけ出したトランプ政権のいわゆる「核態勢の見直し」（NPR）について「高く評価する」というとんでもないことを述べた。

自国の人民に2度も核の惨禍を浴びせた米国の核のこん棒政策を支持、擁護する日本の執権勢力は、いわゆる平和や安全を語る資格を既に喪失した。

さらに、こんにち、反朝鮮制裁・圧力策動の先頭に立っている河野の全ての言動は、一国の外相はおろか、一般の外交官としての初歩的な論理も、常識も、体面もない米国の操り人形、東京駐在米国代表の報道官にほかならないことを示している。

河野に負けじと執権勢力の巨頭が口々に、米国にへつらって中世の宗教裁判をほうふつさせる国連安全保障理事会の対朝鮮「制裁決議」の履行を騒ぎ立て、反朝鮮対決雰囲気をつくらせている目的は他にあるのではない。

安倍勢力は今、必ず憲法を改悪して日本を戦争ができる国にするためにあらゆる欺瞞（ごま）と術策を総動員している。

日本の反動層がいまだに朝鮮の国権を俎上（そじょう）に載せて周辺諸国と共にめった切りにしていた20世紀のように考えるなら、それよりも大きな誤算はない。

河野のような日本の反動層が自分の身の程も知らずに引き続き反朝鮮対決ヒステリーにしがみついたら、墓穴を掘る結果だけをもたらすであろう。

日本当局は、戦略国家の地位に堂々と立ったわが共和国の威力を直視し、自重、自粛する方が良からう。

●最高人民会議常任委員会の金永南委員長を団長とする朝鮮高位級代表団が文在寅大統領と会見（朝鮮中央通信 2/11）

最高人民会議常任委員会の金永南委員長を団長とする朝鮮高位級代表団が第23回冬季オリンピック競技大会の開幕式に参加して10日、青瓦台で南朝鮮の文在寅大統領と会見した。

文在寅大統領は青瓦台本館の玄関で高位級代表団を温かく迎えてあいさつを交わし、金永南委員長、金与正氏とおのおの記念写真を撮った。続いて、青瓦台本館2階で金永南、金与正の両氏は文在寅大統領と温かく懇談した。

文在寅大統領は席上、今回の北側代表団の訪問が南北関係の改善と朝鮮半島の平和のための種火になったと述べ、今日の意義深い席を設けた金正恩委員長に心から感謝のあいさつを送ると指摘した。

金永南委員長は、冬季五輪が成功裏に開幕したことを祝い、文在寅大統領が大事を執り行う中で席を共にしたことに謝意を表した。

席上、敬愛する最高指導者の委任を受けた朝鮮労働党の金与正第1副部長が、わが党と国家、軍隊の最高指導者金正恩同志の文在寅大統領に送る親書を丁重に渡し、最高指導者の意を口頭で伝えた。

文在寅大統領は、金正恩委員長が今回の五輪に北側高位級代表団が参加するよう特段の措置を講じて親書と口頭メッセージまで送ったことに深い謝意を表し、自身の感謝のあいさつを必ず伝えるよう頼んだ。

親書を手渡した後、代表団は北南関係改善の問題と関連して南側と率直に、虚心坦懐（たんかい）に話し合った。

文在寅大統領は、金正恩委員長が新年の辞で明らかにしたように、南北関係を何としても当事者同士で解決しなければならないと述べ、互いに緊密に協力して南北共同の繁栄のために一步一步進む意志を表明した。

金永南委員長は、北南関係の新たな全盛期を開いていく上で確固たる意志を持ち、勇気を出して決断を下すなら、予想外の隘路（あいろ）と難関も十分に突破できるし、統一の未来を早められることに言及した。

懇談は、真摯（しんし）でありながらも温かい雰囲気の中で行われた。

これには、国家体育指導委員会の崔輝委員長、祖国平和統一委員会の李善権委員長と青瓦台の任鍾哲秘書室長、国家安保室の鄭義溶室長、統一部の趙明均長官、国家情報院の徐薫院長が同席した。

同日、文在寅大統領は青瓦台でわが高位級代表団のために昼食会を催した。

昼食会には、わが方の高位級代表団全員と南側の会見参加者、国家情報院、国家安保室の主要関係者が参加した。

昼食会では歓迎のあいさつがあり、終始和気あいあいとした雰囲気の中で行われた。

昼食会後、文在寅大統領の要請により、わが方高位級代表団全員と共に記念撮影を行った。

同日、金永南、金与正の両氏は青瓦台の芳名録に一文をしたためた。

●金正恩党委員長が朝鮮高位級代表団と会見（朝鮮中央通信 2/13）

朝鮮労働党委員長で朝鮮国務委員会委員長、朝鮮人民軍最高司令官である敬愛する最高指導者金正恩同志が12日、第23回冬季オリンピック競技大会の開幕式に参加するために南側地域を訪問した朝鮮高位級代表団のメンバーと会った。

朝鮮最高人民会議常任委員会の金永南委員長、朝鮮労働党の金与正第1副部長、国家体育指導委員会の崔輝委員長、祖国平和統一委員会の李善権委員長をはじめ高位級代表団のメンバーと随行員が参加した。

朝鮮労働党の金英哲副委員長と趙甬元副部長が同席した。

敬愛する最高指導者は、代表団のメンバーと随行員の手を一人一人取って労をねぎらい、彼らから具体的な報告を聴取した。

敬愛する最高指導者に金永南委員長が代表団の五輪の開幕式参加と青瓦台訪問をはじめとする活動内容を詳細に報告した。

敬愛する最高指導者の特命を受けて活動した金与正第1副部長は、文在寅大統領をはじめ南側高位人士との接触の状況、今回の活動期間に把握した南側の意中と米国側の動向などを最高指導者に詳しく報告した。

敬愛する最高指導者は、代表団の帰還報告を受けて満足の意を表したし、南側が高位級代表団をはじめ冬季五輪に参加したわが方のメンバーの訪問を格別に重視し、便宜と活動をしっかり保障するためにあらゆる誠意を尽くして努力する姿が印象的であったと述べ、謝意を表した。

敬愛する最高指導者は、今回の五輪を契機に北と南の強烈な熱望と共通した意志がもたらした和解と対話の良い雰囲気をさらに昇華させて立派な結果を引き続き積んでいくのが重要であると述べ、今後の北南関係改善の発展の方向を具体的に示し、当該部門がそのための実務的対策を立てることにする綱領的な指示を与えた。

敬愛する最高指導者は、高位級代表団のメンバーと共に写真を撮った。

●朝鮮外務省スポークスマン談話（2/25）：米国の追加制裁は戦争行為

敬愛する最高指導者金正恩同志は今年の新年の辞で、北南関係を改善して朝鮮半島に平和な環境を整え、平昌で開かれる冬季五輪の成功裏の開催のために積極的に努力する意志を宣明した。

われわれの最高指導部の崇高な民族愛と平和守護の大勇断によって北南間により対話と協力が遂げられ、北南が力を合わせて五輪行事も成功裏に行われた。

しかし、米国は五輪の閉幕を控えて大規模な反朝鮮制裁措置を講じ、朝鮮半島を対決と戦争の暗雲で再び覆おうと暴れている。

トランプは今回、われわれと他国との海上貿易を完全に遮断することを骨子とする制裁措置を発表し、この制裁が通じなければ「非常に手荒な第2段階」の行動を取るようになるという暴言でわれわれを露骨に威嚇した。

トランプ一味がこの類いの制裁や暴言でわれわれをどうにかしようとする事自体が、われわれに対する無知をさらけ出したものである。

われわれはまさに、米国のこのような威嚇に対処して自分を守るための正義の宝剣である核兵器を保有した。

既に何度も宣明したように、われわれはいかなる封鎖もわれわれに対する戦争行為と見なすであろうし、米国が真にわれわれに対して「手荒」な行動を取る度胸があるなら、われわれは無理に止めないであろう。

同胞の念願通りに北南関係を良好に発展させ、朝鮮半島の平和と安定を守るためにわれわれが傾けるあらゆる誠意と努力を無視し、米国があくまでもわれわれに手出しして挑発を仕掛けてくるなら、われわれは米国が手荒に出ようが、猛然と狂気を振りまこうがわれわれ式の対応方式で米国を押さえ付けて制するであろう。

米国の軽挙妄動で朝鮮半島情勢が再び戦争の瀬戸際に突っ走る場合、それから生じる全ての惨禍は米国の頭上に浴びせられるであろう。

●朝鮮アジア太平洋平和委員会スポークスマン談話（2/25）

朝鮮総聯銃撃事件は意図的な政治的挑発

最近、わが共和国と在日本朝鮮人総聯合会（朝鮮総聯）に反対する日本当局と右翼反動層のヒステリーが極めて重大な段階で起きている。

去る23日午前3時50分ごろ、武装した日本の右翼分子2人が、朝鮮総聯中央常任委員会が入る会館に銃を数発の乱射する極悪なテロ犯罪を働いた。

朝鮮総聯中央常任委員会は、朝鮮総聯と在日同胞の尊厳と權益を代弁し、朝日両国間に国交がない現状で朝鮮の外交代表部の役割を果たす機関である。

朝鮮総聯が結成してこんにちまで、歴代の日本政府と右翼反動層が朝鮮総聯と在日同胞にあらゆる悪事の限りを尽くしてきたが、わが共和国の主権が行使される神聖な領域である朝鮮総聯中央会館にあえて銃撃だけはできなかった。

朝鮮総聯中央会館に対する日本の右翼反動層の銃器テロは、わが共和国の海外公民団体である朝鮮総聯と在日同胞の尊厳と生存権に対する重大な威嚇であり、朝鮮の主権に対する乱暴な侵害行為である。

今回の銃撃事件は、日本の反動層の反朝鮮・反朝鮮総聯策動がどれほど危険な段階に至り、テロを助長して平和を破壊する張本人が果たして誰であるのかを世界にはっきりと示している。

朝鮮総聯中央会館に対する日本の右翼ごろつきのテロ行為は、単なる偶発的な事件ではなく、日本の反動層が朝鮮半島の情勢を極度に緊張させ、これを奇貨として軍国主義の復活と「大東亜共栄圏」の昔の妄想を実現しようとする陰險な企図の下、わが共和国と朝鮮総聯に対して行われた意図的な政治的挑発であり、極悪非道な犯罪である。

日本当局が逮捕された犯罪者に対する調査劇を演じ、あたかも今回の事件がある個別の団体や個人によって生じた犯行のように世論をミスリードして白を切っているが、これは自分らの凶悪な企図を覆い隠すためのお粗末な弁明にすぎない。

今回の事件の首謀者である桂田智司は、日本の右翼団体の全国的な連合会であるという「全日本愛国者団体会議」の副議長を務めた者であり、現在、近畿地方の反動団体で教官として右翼ごろつきを専門的に育てている悪質な極右テロリストである。

銃弾を直接撃った川村能教もやはり、桂田智司の腹心の手下であり、兵庫県に巣くう悪名高い暴力団で各種のテロと犯罪行為に明け暮れている極めて危険な極右ごろつきである。

日本が、朝鮮半島に平和な雰囲気が生じるたびに主人の米国が書いたシナリオに沿って国家権力と右翼ごろつき、マスコミを動員して朝鮮総聯と学校、在日同胞に対する強制捜査と暴行、逮捕など前代未聞のファッショ的暴挙を悪辣に働き、わが共和国と朝鮮総聯に対する敵対意識を助長してきたのは周知の事実である。

最近、安倍一味は北と南の和解と朝鮮半島の平和な雰囲気を不満に思い、第23回冬季オリンピック競技大会の会場で差し出がましく振る舞って恥をかく一方、米国と結託してわが共和国を狙った「統合防空・ミサイル防衛訓練」を狂乱的に行った。

外電が今回の銃乱射事件を米国と日本の大規模な合同軍事演習によって朝鮮半島はもちろん、アジア太平洋地域の情勢が極度に不安になっている時に発生した事件であると指摘し、大きな懸念を示しているのは決して偶然ではない。

日本当局がいつまでも遂げられないつまらない夢を実現しようと狂奔したばかりか、右翼ごろつきに武器まで与えて朝鮮総聯中央会館に銃撃させたのは、わが共和国に対する露骨な挑戦であり、朝鮮総聯に対する全面弾圧の前奏曲である。

朝鮮半島とアジア太平洋地域の平和と安定がいつにも増して切実に要求される時に、軍国化の野望を実現するために再び緊張激化の噴火口を爆発させた日本当局の不法、非道なテロ行為は、全ての朝鮮民族と国際社会の大きな怒りと憤激をかき立てている。

日本の反動層が反朝鮮・反朝鮮総聯抹殺策動に狂奔するほど、平和の破壊者、戦争の手先としての日本の醜悪な本性がより一層世界の面前にことごとくあらわになるだけである。

朝鮮総聯中央会館に対する日本の反動層のテロ行為は現在、わが軍隊と人民の対日敵愾(てきがい)心を激しくかき立てており、朝鮮民族の千年来の敵である島国の侵略者とは専ら強力な力で決算すべきであるという意志を百倍、千倍に固めさせている。

日本当局と右翼ごろつきは、朝鮮総聯と在日同胞に対するあらゆる形態の差別と弾圧策動がわが共和国に対する許し難い挑発行為であり、島国全域に恐ろしい災難をもたらす自滅行為になることをはっきりと銘記し、分別ある行動をすべきである。

日本当局は、朝鮮総聯中央会館に対する銃撃事件の背後と真相をくまなく明らかにし、今回の事件の主犯者、共犯者を厳罰に処し、二度と朝鮮総聯と在日同胞に対する強力犯とテロ行為が発生しないよう特段の措置を講じるべきであろう。

●冬季パラリンピック参加のための北南実務会談（朝鮮中央通信 2/27）

わが方の第12回冬季パラリンピック競技大会参加のための北南実務会談が27日、板門店の統一閣で行われた。

会談で双方は、わが方が今大会に参加する上で提起される実務的な問題を協議し、共同報道文を採択した。

共同報道文には、第12回冬季パラリンピック競技大会に朝鮮パラリンピック委員会代表団と選手団が参加する問題、往復の経路と日時が明らかにされており、南側が便宜を図ることについて指摘されている。また、わが方の今大会参加に関連する具体的な実務的問題は文書交換方式で協議すると指摘されている。

●朝鮮外務省スポークスマン：朝鮮中央通信の質問に回答（3/3）

前提条件付朝米対話はしない

最近、米国が朝米対話問題に関連して適切な条件が整わなければ対話しないだの、核兵器とミサイルを放棄する意志があるのか見守ると引き続き吹いて生意気に振る舞っている。

われわれの急速な核戦力強化に仰天して対話の扉を引き続きたたいてきた米国が、そしらぬ顔でさまざまな前提条件を持ち出しても足りず、対話をするにも核放棄のための対話をするであろうし、「最大限の圧力」は非核化が永久に実現する時まで続くであろうというのは笑止千万である。

朝鮮半島で同族対決を終わらせ、平和を成し遂げようとするわれわれの崇高な民族愛と大勇断によって、北と南が平昌で冬季五輪を成功裏に行い、和解と協力の新たなページを開いている。

われわれは、平和を願うわが同胞と国際社会の念願から米国とも対話が可能であるという立場を明らかにした。

対話と協議を通じて外交的に、平和的に問題を解決しようとするのは、われわれの一貫した原則的な立場である。

われわれが志向する対話は、国家間に平等な立場で相互の関心事となる問題を論議、解決する対話である。

この数十年間にわたる朝米会談の歴史でわれわれはただの一度も米国と前提条件付の対話のテーブルに着いていないし、今後もそのようなことはないであろう。

われわれが朝米対話意思を明らかにした後に現れた米国の動向は、われわれに米国が、朝米対話が再開するのを快く思わないとしか見なせなくしている。

われわれは、対話と協議を通じて外交的に、平和的に問題を解決する意志があるが、決して対話を哀願したり、米国が騒ぐ軍事的選択を避けたりもしないであろう。

われわれは、米国のいかなる選択にも全て対応する能力と意志がフル装填されている。

朝鮮半島にわが民族と全世界が願う平和が宿るのか、もしくは対決の悪循環の中で誰も願わない事態が招かれるのかは全的に米国の態度次第である。

米国は、われわれの対話意志を誤断してはならないであろう。

●金正恩委員長が南朝鮮大統領特使代表団と会見（朝鮮中央通信 3/6）

朝鮮労働党委員長で朝鮮国务委員会委員長、朝鮮人民軍最高司令官である敬愛する最高指導者金正恩同志が5日、平壤を訪れた南朝鮮大統領の特使代表団メンバーと会見した。

文在寅大統領の特使である青瓦台国家安保室の鄭義浴室長と国家情報院の徐薫院長、千海成統一部次官、国情院の金相均次長、青瓦台国政状況室の尹建永室長が参加した。

朝鮮労働党の金英哲副委員長と金与正第1副部長が参加した。

敬愛する最高指導者は、特使と一行の手を一人一人熱く握り、彼らの平壤訪問を熱烈に歓迎した。

最高指導者に特使である鄭義浴室長が文在寅大統領の親書を丁重に手渡した。

特使代表団メンバーは、最高指導者に第23回冬季オリンピック競技大会を契機に高位級代表団をはじめ規模の大きい多くの代表団を派遣して大会が成功裏に行われるようにしたこと感謝のあいさつを述べた。

最高指導者はこれに謝意を表し、同じ血筋を引く同胞として同族の慶事を共に喜び、助けるのは当然のことであると述べ、今回の冬季五輪がわが民族の気概と地位を内外に誇示し、北と南の間に和解と団結、対話の良い雰囲気をつくっていく上で極めて重要な契機になったと述べた。

最高指導者は、南側の特使代表団一行と北南関係を積極的に改善し、朝鮮半島の平和と安定を保障する上で提起される問題について虚心坦懐に話し合った。

最高指導者は、わが民族同士で力を合わせて世界にこれ見よがしに北南関係を精力的に前進させ、祖国統一の新しい歴史を記していこうというのがわれわれの一貫した原則的な立場であり、自身の確固たる意志であると重ねて宣明した。

最高指導者は、南側の特使から首脳対面に関する文在寅大統領の意を伝え聞いて意見を交換し、満足な合意を見た。

最高指導者は、当該部門がこれに関する実務的措置を速やかに講じることに関する綱領的な指示を与えた。

最高指導者はまた、朝鮮半島の緊迫した軍事的緊張を緩和し、北と南の間の多面的な対話と接触、協力と交流を活性化する問題についても踏み込んだ意見を交わした。

最高指導者と文在寅大統領の特使代表団の面談は、同胞愛的で真摯な雰囲気の中で行われた。金正恩同志は、特使代表団メンバーと共に記念写真を撮った。

●朝鮮中央通信社論評：日本は圧力継続なら平壤行き切符は得られない（3/17）

朝鮮中央通信社は17日、「大勢を知らなければ、素矢を食うことになる」と題する全文次のような論評を発表した。

最近、急転する情勢の流れに慌てふためいた日本の反動層が対朝鮮制裁・圧力の雰囲気鼓吹に必死にしがみついている。

7日、日本の英字紙「ジャパントイムズ」は、安倍一味がロ々に対朝鮮圧力を強化すべきであるのだ、制裁が効果を表しているのだの何のと騒いでいることをいちいち列挙し、「現状について一番不安がっているのは日本」であるとちくりと刺した。

壊れたレコードのように「制裁、圧力」のラッパばかりを意地悪に吹く安倍一味の言動は地域情勢の発展の騒音にしかない。

これは、朝鮮半島情勢の悪化で漁夫の利を得てきた島国の連中の体質的な悪習の表れであって、大勢の流れを逆戻りさせようとするつまらないあがきにすぎない。

これまで、主人の米国が掲げた「最大限の圧力」政策の遂行で誰よりも先頭に立って狂奔してきたのがまさに日本の反動層である。

首相、外相など高位政治家が総動員されて国際舞台で対朝鮮圧力共助を哀願したし、他人の大事にまで割り込んで朝鮮民族の祝い事にあくまでも水を差そうと破廉恥に振る舞った。

しかし、あれほど「労」を費やした対朝鮮制裁・圧力騒動は既に消沈して久しい。

誰その「海上密輸」を監視すると騒ぎを起こしていた日本が「負担の共有」だの、「監視の分担」だのと他国を引き込もうとしたが、応じる相手が居ないのが現実である。

対朝鮮問題で「日米韓の強力な連携」と「緊密な協力」を口やかましく騒いだが、むしろ返ってきたのは「日本疎外」という深刻な懸念だけである。

この期に及んで「対朝鮮制裁・圧力」なる気の抜けた決まり文句を繰り返している日本の反動層の姿は、素矢を食うことになった極度の不安感の表出である。

情勢は急転している。今こそ日本が自分自身のために大勢を直視して対朝鮮政策を熟考すべき時である。われわれは既に、日本の反動層が分別を欠いて引き続き悪たれては永遠に平壤行き切符を得られないかもしれないと警告した。

つまらないあがきをやめ、手遅れになる前に大勢に従うほうが賢明であろう。

●労働新聞論評（3/20）

当事者同士が対座する前に烏合の衆が雰囲気曇らせてはならない

朝鮮中央通信は20日、「荒唐無稽な詭弁で真実を惑わしてはならない」というタイトルで以下のような論評を配信した。

最近、わが国の主動的な措置と平和愛好的な提案によって北南間には劇的な和解の雰囲気が醸し出され、朝米関係においても変化の機運が現れている。

北と南、海外の全民族はこの驚異的な現実が真正な平和と統一につながるのを切々と願っている。国際社会も北南関係改善と朝鮮半島の平和のためのわれわれの大胆な決断と積極的な努力に対し一様に支持と歓迎の意思を表している。

このような時、米国と日本国内の不純勢力と南朝鮮のかいらい保守一味は、性根が曲がった、真実をまどわすデマを流し、世論を汚し国内外から憤慨を呼び起こしている。

米国の現職と前職官僚と専門家は、「米国は全く譲歩しなかったが、北朝鮮が前向きに出た」、「トランプの最大限の制裁・圧迫戦略の効果」、「北朝鮮がこれ以上耐えがたい限界点に至ったということを示すもの」だと、我田引水の騒ぎを起こしている。

予想もできなかった急激な朝鮮半島情勢の変化によって、ひとりぼっちの孤独な境遇に陥った日本の安倍一派は、北朝鮮の対話・平和攻勢は、国際社会の持続的な圧力の結果であり、性急な対話は北朝鮮の時間稼ぎに巻き込まれることになる、絶対に制裁を緩めることがあってはならないと騒いでいる。

一方、「自由韓国党」をはじめとするかいらい保守一味と保守メディア、専門家らも、「北が対話に出て来たのは、苦境に立つたびに使う常套的手段」だの、「偽装平和攻勢」だの、「韓米同盟の亀裂と制裁緩和を狙った手口」などと悪態をついている。これこそとんでもないデタラメな詭弁だと言うべきであろう。

われわれに対する拒否感と敵意が骨の髄まで染みついた者たちからは、それ以外の声が出るはずはなかるうが、国内外の期待と大勢の流れに挑戦し、とんでもない詭弁で世論を惑わしていることについては、決して看過することができない。

昨年、われわれは米国をはじめ敵対勢力の策動を断固粉碎して社会主義強国建設で歴史的奇跡を創造した。内外の報道が一致して評しているように、これにより慌てふためいているのは、他でもない敵対勢力である。

一方で昨年、南朝鮮では各界各層の激しいキャンドル闘争によって同族対決と反人民的悪政にふけていた朴槿恵逆徒と保守「政権」が惨めな終わりを遂げ、民主改革勢力の執権を契機に北南関係改善に対する民心の要求が一段と高まった。

われわれの最高指導者は、今年の新年の辞で、根本的に変わった共和国の戦略的地位とわが革命に有利に変わった情勢局面に対する全面的な分析・総括に基づいて、北南関係を改善し自主統一の突破口を開く歴史的な方針を示した。

わが国の最高指導者が提示した北南関係大転換方針によって、対決と戦争の瀬戸際に陥っていた朝鮮半島情勢は緩和局面に急転換するようになり、北南間には和解と団結の劇的な現実が広がるようになった。新年に入り、北南関係でこのような驚くべき転換が起こると誰が想像できただろう。

燃えるような民族愛、同胞愛をもって、南朝鮮の冬季オリンピック競技大会の成功のために、わが選手団と応援団、芸術団をはじめとする大規模使節団を派遣し、あらゆる措置を講じたわが最高指導者の絶世偉人像に全民族が感服を余儀なくされている。北南関係の大転換は決して天がもたらした偶然ではなく、われわれの主動的な措置と熱い同胞愛、平和守護の意志がもたらした尊い結実である。

朝鮮の気概が非常に高まり、国力が強いが故に、今日のような画期的な現実がもたらされたのである。これこそが現実をあるがままに見るもっとも客観的で正確な見解である。にもかかわらず、敵対勢力が「制裁・圧迫の結果」、「限界点」だと騒ぎ立てることこそ、月夜に吠える犬の遠吠えのようなたわいのない言動だと言わざるを得ない。

烏合の衆が言い散らしているように、われわれの経済は崩れておらず、主体化、現代化を目指しこれ見よがしに成長しており、人民生活向上の明るい展望を示す科学技術的成果とモデルが至る所で生み出されている。党に対するわが軍隊と人民の支持と信頼は確固不動であり、わが祖国の地では社会主義進軍歌が力強く響いている。

われわれはすでに、時間も正義もわれわれの側にあり、勝利もわれわれのものだということ、確信をもって語っている。その意味が何かという答えは今日の現実を見れば十分である

う。内外の世論がわれわれの対話平和攻勢に対して、やるべき事を全てやり遂げ、持つべきものを全て手にした自信の表れであると一様に評しているのは、決して偶然ではない。

まだ、北南関係も朝米関係もすべてが始まったにすぎない。互いに相手の意中も知らない時に、当事者同士が対座する前に、烏合の衆が雰囲気をもたせざるを得ない。

無駄な発言は、寝ながら唾を吐くようなものであり、われわれの平和愛好的な提案を受け入れた政府当局を苦しい境遇に追い込むだけである。今は自制と忍耐を持って全ての事柄に対し、慎重に品位をもって対処すべき時である。

ケチをつける者たちは、北南関係の改善と朝鮮半島の平和を願う内外の志向と要求を直視し、真実を惑わす幼稚な茶番をやめるべきである。

●労働新聞論評 (3/29)

大勢に逆行する者たちは永遠に平壤の敷居をまたぐことはできない

日本の安倍一派が、われわれの主動的な努力で北南関係が改善されている中、自らの統治危機が深刻化し内外で苦境に立たされるや、窮余の策として反共和国対決策動により積極的に乗り出している。

最近安倍一派らはわれわれに言い掛かりをつけながら、南朝鮮当局者に「日本人拉致問題」を扱ってほしいと身の程知らずに振舞った。そうかと思えば、米国へ飛んでいった外相の河野は、米副大統領ペンスと南朝鮮外交部長カン・ギョンファと会い、型にはまった反共和国対決妄言を吐き、われわれに対する「制裁圧迫を引き続き固守」すべきだと騒ぎ立てた。

一方、安倍は防衛大学の卒業式に現れ、誰それの「具体的な措置」がある時まで「最大限の圧力を加える確固たる立場」は揺るがないと、愚かに振る舞った。まさに、他人に食いつき、自分の利益を満たすのに長けた日本の反動に特有の悪意に満ちた妄動である。安倍一派の言動は、われわれにかこつけ、窮地から脱しようという邪悪な本性の表れである。

周知のように、再侵略の野望にかられた安倍一派は、軍事大国化に拍車をかけながら憲法を改悪し、日本を「戦争ができる国」にするために狂騒している。軍国主義復活に狂った日本の反動たちにとって朝鮮半島の緊張緩和は極めて都合の悪いことである。われわれの「脅威」を口実に、軍国主義復活に熱を上げ、再侵略の野望を実現しようというのが島国一門の胸の内である。最近、日本の反動たちが攻撃用潜水艦「せいりゅう」と掃海艦「ひらど」の就役式に続き、日本版海兵隊と呼ばれる水陸機動団を3月中に発足させようとしていることもその表れである。

軍事大国化の野望にかられた日本の反動たちは、朝鮮半島に醸し出されている対話と平和の気運によって、自らの悪巧みが水泡に帰す境遇に置かれるや、極度に不安焦燥し、居ても立ってもいられなくなっている。慌てふためいた日本の反動たちは、ありもしないわれわれの「脅威」を執拗に世論化し、それにかこつけ自らの侵略野望を実現しようとあがいている。「三つ子の魂百まで」と言うが、わが民族が和解し団結することを躍起になって反対しながら、北南間の反目と対立を激化させ、それを通じて「漁父の利」を得ようと狂いたつ、恥しらずで狡猾な日本の反動たちのあくどい性根はどうしようもない。わが民族に千秋万代を置いても拭うことのできない万古罪悪を犯した日本の反動たちが、それについて謝罪・賠償するどころか、われわれに言い掛かりをつけながら反共和国対決騒動に躍起になっていることには、血が逆流するほどの怒りを禁じえない。

安倍一派が反共和国対決に固執しているのには、もう一つの陰險な目的がある。

最近安倍は、森友学園問題をはじめとする特大の不正事件により絶体絶命の境遇に陥り、辞任寸前に追いやられている。醜悪な政治奸商輩の見苦しい姿をさらした安倍の妄動に憤慨した日本の各階各層の人々は、いたるところで「うそつき内閣には政治をする資格がない」、「安倍政治を許してはならない」、「退陣しろ」と叫びながら反政府闘争を繰り広げている。

慌てた安倍一派は、自分に注がれる憤怒の目を他に向け、執権危機を免れるために「拉致問題」だの、「最大の圧力」だのと騒ぎ立て、われわれに言い掛かりをつけることで、息継ぎをしようとメギツネのように振る舞っている。安倍一派こそが、自らの政治的野望を実現するためであれば、如何なる不純な妄動もためらわない邪悪な群れである。

つまらない欲に浮かれていると一寸先も見なくなるものである。安倍一派が南朝鮮当局と米国にちょっかいをかけ、北南間の和解と団結を妨害し朝鮮半島問題に加わろうと慌てふためいているが、それは大勢の流れも見分けることができない愚鈍なことである。現情勢の流れが誰によって用意されたのかも解らず、制裁と圧迫について騒ぎ立てている安倍一派は、自らの対決妄動が孤立と自滅をより一層早めるということを、はっきりと解らなければならない。

日本の反動たちが時代錯誤的な対朝鮮敵視政策に執拗にしがみつくと、内外のより大きな非難と嘲笑を呼び起こすだけである。大勢に逆行し、対決に狂った者たちは永遠に平壤の敷居をまたぐことはできないだろう。